

フィリピン・地域住民による森林管理プログラムにおけるFFSの導入

中東やアフリカ諸国を主なターゲットにしている国際耕種にとって、東南アジアのフィリピンはあまりなじみのない国であるが、今回短期専門家業務で訪れる機会を得た。主な業務の内容は、現在実施中の技術協力プロジェクト・地域住民による森林管理 (Community-Based Forest Management: CBFM) プログラム支援において、農民による主体的及び持続的な CBFM 活動実施を支援して自然資源の持続的利用を促進するために、普及活動を実施することである。普及ツールとしては、FAO により開発された農民参加型の技術普及手法である FFS (Farmer Field School) を取り入れて、農業普及員や CBFM コーディネーターを FFS ファシリテーターとして活用しながら普及活動を行う。

FFS は通常、20～30名の農民グループを対象にして IPM (Integrated Pest Management) を実施するために 1980年代後半に開発された手法である。IPM-FFS では米や野菜などの作物を対象にして、播種から収穫までの期間、Learning Field と呼ばれる圃場で IPM 区と非 IPM 区との比較試験を行い、毎週観察や分析を行いながら、作物栽培や病害虫、農業生態系についての知識や技術を学んでいく。また、こうした活動を通して「考える農民」、「意志決定のできる農民」を育てる Empowerment Process でもある。

FFS は非常にシステムティックな普及手法で、さまざまな「決まり事」があり、ある一定の技術を体系的に教えていくための形が整っている。たとえば FFS では毎週同じ時刻に、同じ場所に、同じメンバー (参加農民及びファシリテーター) が集まり、定められたカリキュラムに従って一定期間のセッションが行われる。こうしたセッションがスケジュール通り続けられて、対象農民が脱落することなく参加し続ければ、終了時には一定の効果が期待できる。もちろん FFS の実施内容や参加農民に対する影響は、ファシリテーターの質に大きく左右されるため、良質なファシリテーターの養成が効果的な FFS の実施のためには必須である。

逆にこうした特徴ゆえに、FFS に参加する農民及びファシリテーターともに定期的かつ継続的なコミットメントが要求される。特に今回の業務のように「森林資源管理や保全」という内容のプロジェクトでは、「保全」を強調した活動だけでは農民の参加インセンティブは希薄になりがちであり、さまざまな IGA (Income Generating Activity) を組み合わせて、農民の生計向上を支援しつつ農民の森林資源に対する圧力や依存を軽減させるというアプローチが取られる。さらに FFS 実施に係る文房具や資材類及び Training Service Fee と呼ばれるファシリテーター費用や交通費等、行政側の予算的支援も欠かせない。いずれにしろ FFS は一つの普及ツールであり、重要な点は「主役」である農民の主体的かつ継続的な関わりと、これを「脇役」として側面から支えるファシリテーターの役割である。FFS は、さまざまな分野での「普及」を考える上で、そのシステムティックな「形」だけにこだわらずに、FFS 的な本質を活かしつつ、他の普及手法にも活用できる可能性があるものと思われる。

(フィリピンにて、湖東)



マンゴの木陰での FFS セッション



農民によるプレゼンテーション



アゴロホストリーの Learning Field 例